

## 《 母の日に寄せて 》 「お母さん」 世界中で描かれた「大切なもの」!?

「あなたにとって、一番大切なものは何ですか？それを、絵に描いていただけますか？ちなみに、『大切なもの』は何でもいいです。人でも、物でも、実体のない精神的な状態でも、本当に何でもOKです。」

この質問をされたとき、あなたは、すぐに何を思い浮かべるでしょうか？

私は2000年頃から、世界各国にいる人々にこの質問をし、その絵を本人に描いてもらう活動を始めました。10年以上続けた結果、72か国・地域から約1万枚が集まりました。

こうして描かれた「大切なもの」の中で比較的多かったのは、「家」「神様」「愛」「友だち」「学校」などでした。(ちなみに、日本の子どもに限定した場合、男の子では携帯ゲーム機、女の子ではぬいぐるみ、ペットが多かったです)

さて、話を世界全体に戻します。

世界中で描かれた「大切なもの」の中で最も多かったのは「お母さん」でした。世界72か国・地域の人々が描いた様々な「お母さん」の絵は、その国の文化や生活を反映しているようで、とても興味深かったです。「お母さん」の肌の色、髪型、着ている服、立っているときの四肢の様子、そして顔の表情。

こうした「お母さんたち」を描くときに、各国の子どもたちが使った「画材」も様々でした。色鉛筆、クレヨン、水彩、油絵、蛍光ペン、木炭など、各国で手に入れやすい物が使われました。

もし、こうしたことに興味を持たれた方は、次の書簡をご一読いただければ幸いです。

『お母さんへ、世界中の子どもたちからプレゼント～あなたのたいせつなものはなんですか？』(小学館 著：山本 敏晴)

さて、「どうして、お母さんが一番大切なの？」と、それぞれの子どもに聞いてみました。

「僕を育ててくれたから」「私と一緒に遊んでくれるから」「いつでも、何でも相談できるから」「そばにいてだけで、何となく幸せだから」「いつか、私も子どもを産んで『お母さん』になってみたいから」

5月の第2日曜日は「母の日」です。あなたにとっての「お母さん」とは何かを、少しだけ考えてみませんか。

＜ NPO法人 宇宙船地球号事務局長 山本 敏晴 ＞

